

Y's Tap Dance Party

2007年12月 No.006



本日、川崎教育文化会館にいらした方の中から、たった100部の限定コラムを、Y's 天野俊哉がお贈りいたします。

エルビス・プレスリー、チャールズ・チャップリンが亡くなって30年、BOΦWYが解散して20年、私達の師匠が亡くなって15年、消費税が5%になって10年etc... 私にとっては、何かと節目に当たる年でしたが、皆様にとってはどんな一年でしたか？

TAP な秋でした

10月から12月にかけて芸能人の方が多くメディアに登場。舞台では小堺一機さん(TAP GUY)、TVでは黒木瞳さん(きよしとこの夜)、早乙女太一さん(誰でもピカソ)、映画では森山未来さん(スマイル聖夜の奇跡)。特に黒木さんが踊られた直後は、主婦の方の見学者がぐっと増えました。

16歳の早乙女太一さんが女形だけでなくタップに挑戦というのもタップPRにとっても貢献してくれますが、過去に同じ女形のベテラン松井誠さんも、私の師匠にレッスンを受けておられました。タップって男っぽさを表現するには最大の効果がありますからね。いずれにせよ、芸能界の方のワンステップは、私達の何万ステップよりも効果的なので大歓迎です。もっと、もっと踊ってください。

2007年追悼

タップダンスのヘンリー・ルタン、モダンバレエのモーリス・ベジャール、ブロードウェイの日系スター、ナンシー梅木、イギリス出身映画女優デボラ・カー(押田君のコラムVol.68参照)etc ショービジネスで素晴らしい功績を残された方々が亡くなりました。今回は次のお二人のことを...

ハリウッドの不幸なミュージカル女優

「アニーよ銃をとれ」で有名なベティ・ハットンが3月14日に86歳で亡くなりました。1940年代のパラマウント映画でトップスターだったのに、映画会社とのトラブルであつという間に引退。「往年の大スターが片田舎でウエイトレス」みたいな記事を映画雑誌で読んだことがあります。元々、自分のペースで行動するタイプの人だったので、天下のフレッド・アステアと「Let's

Dance」で共演した時も息の合わないデュエットをたっぷりみせてくれました。また、「アニーよ」の様な名作に主演しながらも、本来主演するはずだったジュディ・ガーランドの未使用録音や映像の方が近年注目されたり、かなり気の毒な人という位置付けですね。

CGなど無かった当時のハリウッドでは、空中ブランコ、綱渡りなど、自分で演じた女優も多く、ベティも例外ではありませんでした。チャールストン・ヘストンやジェームズ・スチュアートら当時のオールスターを従えてベティが主演したデミル監督の「地上最大のショー」を観ると体を張ったそのアクションに思わず感動。存在感のあるスターだったなあと思います。¥500DVDで入手可能です。

カリスマ振付師

「UFO」「サウスポー」などピンクレディーの大ブームに貢献した振付の土居はじめ先生が9月14日70歳の若さでなくなりました。歌謡曲全盛時代、日本テレビのバラエティや歌番組でよく振付をされました。タモリさんの「今夜は最高」にはレギュラー出演。その多くがコントでした。1982年10月フジテレビで突如スタートした「笑っていいとも」の"テレフォン・ジョッキング"の第1回ゲストが確か土居先生(→桜田淳子さんを指名)でした。

振付師にありがちなオカマっぽさも、ヤクザっぽさも無い、ごくごく普通の外見のせいかな、現役時代どんなダンサーでいらしたのかは想像できませんでした。

最近ピンクレディーのお二人が「私達ダンサーにも肖像権があるはず」みたいな発言が新聞で取り上げられましたが、権利問題が野放し状態の日本らしいエピソード。土居先生や音楽の阿久悠さんなど、お二人と親しい方々がなくなった直後だったので、皆さんの間でその様な話をされていたのかも知れませんね。

皆様のご冥福をお祈りいたします。

マージ・チャンピオンを知っていますか？

セヴィアン・グローバーが映画「ハッピー・フィート」の主人公マンブルのタップダンスのモデル(吹替え)を演じたことがとても話題になりましたね。私は最近ディ

ズニー・アニメ「白雪姫」の白雪姫、「ピノキオ」のブルー・フェアリー、「ファンタジア」の踊るカバさんのモデルを務めたのがマージ・チャンピオンであることを初めて知りました。マージは1950年代、マージ&ガワー・チャンピオン夫妻として、とても人気のあったダンスチーム。

MGMと契約していたことで「ショウボート」など魅力的なミュージカルに出演、数々の名シーンを残しました。1952年の「Give a Girl a Break」は、当時MGMの若手ばかりを集めた実験的作品で、スタンリー・ドネン監督、チャンピオン夫妻、デビー・レイノルズそしてボブ・フォッシなど、今となってはすごい顔合わせ。マージいわく「ガワーは振付師としてジェローム・ロビンズやボブ・フォッシより過小評価されすぎ」。しかしガワーは、1980年に亡くなる直前ブロードウェイで「42ND STREET」を成功させ、ブロードウェイの伝説的存在となりました。

マージは子育てのためダンスから離れる人生を送ったのち、現在では、引退後のダンサーの転職のケアをする仕事と、有能な振付師に仕事を提供する仕事などを行っているそうです。とても立派なことですね。

また、ディズニー・アニメの名作「白雪姫」が公開されて70年にあたる今年、タイトル・ロールのモデルを務めたマージ（現在88歳！）は記念イベントに出演。

「あの映画の関係者で生き残っているのはどうやら私だけのようね」。将来こんなセリフを言ってみたいものですね。

It's Swell Party のこと

～本日のプログラム第2部 M-2～

今となっては嘘のような話ですが、バブルの頃、ホテル・ニューオータニが「小原重徳とジョイフル・オーケストラ」という専属の楽団を持っていました。たった一度だけ、ホテルのラウンジでなく青山劇場でコンサートを開いたことがありました。映画音楽、ジャズ・バラードまで何でもこなす楽団で、20名近いストリングスを加えたコンサートは実に見事なものでした。その後ライブCD（当時¥3,000）が発売され、ライナーノートを書かれたのが、今でも大変お世話になっている瀬川昌久先生でした。中でも“Sweet Sue”を中心とした1920年代メドレーがとても素敵で、「こんな風に、あんな風に、師匠に踊ってもらおう」と大切にストックしてあったのですが、願いかなわず封印してしまいました。

今回、浅野から「Y'sのインストラクターみんなで踊りたい」というリクエストがあり、真っ先に浮かんだのがこの曲でした。瀬川先生に電話でお伝えしたところ「とても懐かしい曲ですね」と覚えていてくださいました。

盛りだくさんの発表会の中で、お客様には肩の力を抜いてこのナンバーに接していただきたいと思います（振付は天野、押田、阿部の3人が担当しました）。

「バレエ・リュス」に注目！

現在、ハリウッド映画よりも断然面白いのが日本映画とドキュメンタリー映画だと思います。私は今、12月に公開される「バレエ・リュス」という作品をとても楽しみにしています。「1929年に解散した、ニジンスキーを生んだロシア・バレエ団の残された団員達その後」というテーマがいいですね。もう、自分達みたいで...

予告を見た限り、圧巻は古いアーカイブ・フィルムが存在でした。レオニード・マシーン（赤い靴）やジョージ・バランシン（「On Your Toes」）が振付した作品がフィルムで登場。バレエそのものに興味が無くても、何となく観れてしまうところがドキュメンタリー映画の強みですね。

「ウォルト・ディズニーってこんな人だったんだ!!」

亡くなって40年たつのに、夢を売り続けるためその素顔をまったく見せない代表選手が故ウォルト・ディズニー。以前コラムで、戦時中どのような活動をしていたのか書いたことがありましたが、丸ごと一冊つつみかかず書かれたのがダイヤモンド社から発売された「創造の狂気」です。ディズニー社の全面協力を得ながら同社の検閲を受けずに（勝手に）出版してしまったと言う、インチキクさい流れが笑わせる。出来ることなら、休みの日にディズニーランドのベンチに座ってゆっくり読みたい一冊です。

「シノザキ演出」今も健在!!

夢いっぱい「アニメ」のスタイルを確立したのが、以前演出されていた篠崎先生。今でも「アニメ」のOG達が口を揃えて賞賛するのがシノザキ演出の厳しさと先生のやさしさです。つい最近、青山劇場の近くで「子役を目差している子供達を対象にしたレッスン・スタジオ」で活動されているのを知り、とても嬉しくなりました。シノザキスタジオ「渋谷ピット」03-5374-8898

「美しきチャレンジャー」たち!?

日本でのナショナル・タップ・デー最多出場者（10回）の浅野康子が、独立して2度目のNTDにチャレンジ。音楽も前回の“Latin Soul”からぐっと現代的に“Swing Rock”というあたりが若いリーダーらしい発想。秦香織・落合那名・田中美也子そしてPure Jewelsら初参加メンバーを多く引き連れて新しいY'sパワーをみせてくれるはず。4月19日（土）・20日（日）メルパルクホールにて上演。良いお席はY'sインストラクターまで。

Y's Tap Dance Party

<http://www.ytdp.com>